

事務事業評価表 平成22年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 都市型農業の推進
 基本事業 生産性の高い農業経営の確立

事業名 **市営牧野管理経費**

[0039]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 市営牧野
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 市営牧野が適切に管理される。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 地元の関係団体等により維持管理を実施。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市営牧野数	箇所	7	7	7	7
対象指標2						
活動指標1	維持 管理経費	千円	55	80	12	12
活動指標2						
成果指標1	肉牛飼養頭数	頭	814	851	761	851
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	55	80	12	12
正職員人件費 (B)		千円	1,675	1,672	830	833
総事業費 (A) + (B)		千円	1,730	1,752	842	845

費用内訳	
21年度	旅費 12千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	当初から事業意図の変化はないが、以前は「まき牛」(種牛と繁殖牛を同時放牧して交配させる方法 H10まで市営牧野でも実施)が主流であったが、現在はこの方法では市場価値が極めて低いため、人工授精により市場価値の高い優良種雄牛の種を利用している。このため、入牧頭数は大幅に減少しており、これに伴い、牧区の統合・縮小を行い、適正規模で運営している。(H17年度まで)
--------	--	-------------	---

21年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は?

深川牧野は利用を休止しており、利活用方法を検討中である。経費については、維持管理のために最低限必要な金額です。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は?

利用を休止しているためです。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか?

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は?

深川牧野は、深川市の和牛生産者へ一部利用を許可したことにより、肥培管理が行われ、牧野としての機能が維持されています。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は?

現在休止中ですが地元関係団体の自主管理により維持管理を実施しています。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は?

現在牧野としては休止中です。